


中部大学
ESDエコマネーチーム2013
活動報告書

中部大学ESDエコマネーチーム



1. メンバー一覧	3
2. チームの概要	4
3. 2013年度の活動	5
3.1. ハイライト(広報)	5
3.2. チャレンジサイト	11
3.3. エコプロダクツ2013	16
3.4. 全国環境ISO学生大会	17
3.5. 産学官民連携:①スマート・ムーブ	18
産学官民連携:②経済産業省・日本規格協会	19
産学官民連携:③MS研究会での発表	20
産学官民連携:④水俣市役所	21
産学官民連携:⑤愛知商業高校	22
産学官民連携:⑥香港大学	23
3.6. 環境イベントでの展示:①NAGOYA学生EXPO2013	24
環境イベントでの展示:②環境デーなごや	25
環境イベントでの展示:③春日井祭り	26
環境イベントでの展示:④中部大学フェア	27
環境イベントでの展示:⑤大学祭	28
環境イベントでの展示:⑥こどもサイエンス王国	29
3.7. 統合マネジメントシステム	30
3.8. ピアサポーター:恵那研修	31
3.9. キャリアリーダー	32
4. 主要部門の活動成果	33
4.1. 委員長	33
4.2. 副委員長	34
4.3. 標準化教育部	35
4.4. 地域部	36
4.5. 書記部	38
4.6. 監査部	39
4.7. デザイン部	40
4.8. 国際部	41
4.9. 情報部・広報部	42
5. 目的目標実施計画達成状況	43
I 学生主体のESDを通じて行う自主的な環境活動支援、 標準化人材育成への寄与	43
II サステナビリティを考慮した環境研究、活動、イベント推進	45
III 学生主体の持続可能な3つのマネジメントシステムの構築・運用	46
IV チーム活動に関連する法的その他の要求事項の遵守	48
V 環境マネジメント分野の標準化教材普及と事業継続マネジメント システムの標準化教材の開発	48
6. マネジメントレビュー	49
7. 2012年度の活動評価	50
7.1 学生主体の環境マネジメント分野の標準化教育	50
7.2 命をつなぐProject-愛知環境賞受賞	53
7.3 学長賞	54

1.メンバー一覧

中部大学ESDエコマネーチーム2013

					
委員長 小寺 章史	副委員長 小寺 和希	監査 小川 大紀	地域 澤田あずさ	書記 落合 紳悟	
					
書記 寺井 勝也	デザイン 後藤 紫穂	監査 横川 知己世	デザイン 清水 象平	標準化・監査 山口 菜々望	
					
国際 伊藤 百合香	国際 中山 幸大	広報・情報 谷口 幸大	アドバイザー 飯田貴也	アドバイザー 井上翔太	アドバイザー カラフル N. B.

中部大学ESDエコマネーチーム2013 1年

						
1年リーダー 保浦 徹	1年副リーダー 池田 敬介	国際・書記 清水 佳菜	地域 元永拓己	地域 田中駿吾	地域 田中 翔太	監査 小林 佳暉
						
監査 加藤 大貴	監査・デザイン 加藤初美	デザイン 大津文菜	国際 樺山 貴斗	国際・書記 田中 萌子	標準化教育 川口 幸大	標準化教育 泉 翔太
						
国際 王 哲	国際 中島 岳弘	地域 打田 健太	情報 春木 薫	書記 前田 一樹	監査 米田 篤人	書記 柴田 准希

2. チームの概要

中部大学ESDエコマネーチームは、「持続可能な社会を担う人材の育成」、特に次の世代へ理解、交流を深めていくことで、学生時代に培った力を社会に役立たせ、よりよい社会の実現を目指し、特に以下の事柄に取り組んでいる。

中部大学ESDエコマネーチーム サステナビリティ方針

中部大学ESDエコマネーチームは、みなまたの教訓の継承や環境・社会・経済のサステナビリティ(持続可能性)の重要性を認識しながら、環境研究をすすめるとともに、学生主体の活動を通じて環境・社会・経済に関する物事をみる力を養い、率先的な活動を行います。これらの研究や活動を通じて、「持続可能な社会を担う人材の育成」、特に次の世代へ理解、交流を深めていくことで、学生時代に培った力を社会に役立たせ、よりよい社会の実現を目指し、特に以下の事柄に取り組みます。

1. 学生主体のESD活動の実践を通じた以下の内容を推進します。
 - ・産学官民連携、みなまた環境大学等を通じたESD(持続可能な開発のための教育)。
 - ・環境地域通貨(エコマネー)を活用しながら、持続可能な発展に寄与する地域における自主的な環境活動の支援。
 - ・環境マネジメントおよび関連分野の標準化教育を推進し、標準を使う人から作る人、教える人の標準化人材育成への寄与。
2. チームの活動及び参加・主催するすべてのイベントにおいてサステナビリティを考慮し、環境研究及び実践(活動とイベント)を推進します。
3. 持続可能なイベントマネジメントシステムの構築・運用はチームの特徴である学生主体の率先的な姿勢を活かしながら実施します。
4. 持続可能な発展とチーム活動の関連性を考慮するとともに、チームの活動に関連する法的・その他の要求事項をチーム全員が理解し、遵守します。
5. 環境マネジメント分野に関する標準化教材を普及するとともに、事業継続マネジメントシステムの標準化教材を開発し、標準化人材育成に努めます。

中部大学ESDエコマネーチームはこのサステナビリティ方針に基づき、目的、目標を設定し、その実現に向けて行動するとともに、行動の状況を監査して見直しを繰り返します。これにより継続的にシステムとパフォーマンスを改善し、汚染を予防します。

このサステナビリティ方針は文書化し、チームに所属する学生、イベントの共催者及び、参加者等の関係者に周知するとともにインターネットのホームページを用いて一般に開示します。

2013年4月1日

中部大学ESDエコマネーチーム2013

代表 小寺章史

中部大学ESDエコマネーチーム
〒487-8501 愛知県春日井市松本町1200
中部大学経営情報学部 伊藤佳世研究室内

電話 0568-51-9968
電子メール: chubu_esd_team@yahoo.co.jp

3.2013年度の活動

3.1 ハイライト（広報）

テレビ愛知取材

6月4日にテレビ愛知による取材があった。主要メンバーを中心に、チームの活動内容とやりがい、将来の夢について取材を受けた。この様子は7月10日に放送された。



2013.6.4
テレビ取材



3.2013年度の活動

3.1 ハイライト（広報）

MONTHLY CHUBU 1月号

<http://www3.chubu.ac.jp/monthly/news/5814/>

小寺章史委員長が中部大学の広報誌Monthly Chubuに活躍する学生として取り上げられた。



■ [Monthly Chubu ホーム](#) > [新着情報](#) > 経営情報学部 経営学科3年 小寺章史さん



小寺章史さん（写真中央）
中部大学ESDエコマネーチームのメンバーと

プロフィール

小寺章史（コデラアキフミ）さん。経営情報学部経営学科3年。岐阜県・美濃加茂高校出身。中部大学ESDエコマネーチーム2013委員長。趣味は釣り。

3.2013年度の活動

3.1 ハイライト（広報）

産官学と連携して次々とプロジェクトを進行ー「中部大学ESDエコマネーチーム」がすごいんです！！

小寺さんが委員長を務める「中部大学ESDエコマネーチーム」とは、[伊藤佳世先生](#) のゼミ生らがメンバーとなり、「ISO14001」「ISO22301」「ESD」をキーワードに環境問題や企業の継続性、ESDについて考え、活動するチームです。これまでに国の機関をはじめ、近隣の高校でも授業をするなど学術分野で活躍してきたほか、名古屋学生EXPO、環境デー名古屋などのイベント、水俣市役所（熊本県）でも活動展開するなど、産学官と連携して環境問題や企業の継続性の国際規格について、推進活動を行ってきました。

愛知商業高校でISO14001について教えている様子



エコプロダクツ2013に出展したときの様子

エコプロダクツ2013は、日本最大級の環境展示会。大学・教育機関ブースも有り、東海地方からは唯一中部大学ESDエコマネーチームが出展。今年は12月12日から14日まで開催。



3.2013年度の活動

3.1 ハイライト（広報）

そもそもISO14001とか22301って何？ 遊びを通して学ぶ「すごろく」の開発

ISO14001とかISO22301っていったいなんのこと?!という方もいると思います（語句説明はページ下部）。一言で言ってしまうと「国際標準化機構で定められた規格」ですが、一般の人により分かりやすくと考え出されたのがゲーム形式の標準化教材です。サイコロを振って止まったマスの質問に答えていきながら国際規格を理解し、ゴールを目指します。

今年はISO22301に関連したBCMS（事業継続マネジメントシステム）がテーマで、災害や情報漏えいなどのリスクから「会社をいかに守るか」をゲームで学ぶことができます。



リスクを回避するための投資カードも用意されて本格的



遊びを通して学ぶのでイベントブースを訪れる子どもたちも簡単に取り組むことができる。

企業の新入社員教育でもすごろくが採用

小寺さんら大学生が新入社員を教育?!

小寺さんたちが開発したゲーム形式の標準化教材は、世界初の取り組みであり、国内外の標準化機関、企業、自治体等で広く活用されています。中には、新入社員教育の際にこのすごろくを使っているという大企業もあるとのこと。「これまでいろいろなイベントに出展してきたので、そこで僕たちの活動を知った人が企業でも採用したいと導入してくださいました。さすがに年上の社会人の方を相手に話すのは緊張しますし、やりづらい感じもありましたが、導入してくださったのは自分たちの活動が評価されたということなので素直にうれしいです」

3.2013年度の活動

3.1 ハイライト（広報）

活動の拠点はゼミ！

中部大学ESDエコマネーチームの活動は毎週水曜日のゼミが母体になっています。ここで決まったことや考え出されたことが学術分野、産学連携に発信されていきます。「僕たちのゼミの特徴的な点は、全て学生に任されていて、委員長の僕が中心になってゼミを企画・運営していることです。ゼミ生は現在13人いて、地域部や国際部などの9つの部署があり、1人1人が役割を担っています。僕は委員長として9つの部署を管理し、仕事の進み具合などをチェックしています」

国のプロジェクトも手掛ける

「どんどん新しいことに取り組んでいきたい」と物事に意欲的な小寺さん。現状の活動に満足することなく活動の幅を広げることに積極的です。「例えばスマートムーブの活動は、環境省が推進する二酸化炭素の排出を減らしましょうという趣旨への活動なのですが、知り合いの企業の方から話を聞き、興味を持ったのでゼミに持ち帰り、みんなの賛同を得て取り組むことにしました。現在はさまざまなイベントで来場者に『ふんわりアクセルをしていますか』『アイドリングストップをしていますか』といったアンケートを取っています。このプロジェクト以外にも国のプロジェクトを2つやっていて、会議やプレゼンテーションを通して国のためにも活動できるのでやりがいは大きいです。」



ゼミはまるで1つの会社のよう。小寺さんは社長として全体をまとめています。



ゼミから発信!その他のプロジェクト



経済産業省、日本規格協会での標準化教材実演。規格のプロ達を前に「相当勉強して臨みました」と小寺さん。



水俣市役所で実演。ESDの原点であり、環境モデル都市である水俣市での意義深い活動。

3.2013年度の活動

3.1 ハイライト（広報）

今後の活動展開

自分達の活動を後輩へと受け継いでいきたい

「来年は、名古屋市で『持続可能な開発のための教育に関するユネスコ世界会議』が開かれます。学生にも機会が与えられれば何らかの形で関わりたいと思います。そして、この地域のESD活動を学生主体で進め、環境への知識・理解を持った人材の育成とキャリア教育（自分の人生をどう設計していくかを考える）を連携し、中部大で優れた人材を継続的に育成していきたいです。」



高校生にメッセージ



各部門のスペシャリストになれる、それが中部大

「中部大は文系・理系の7学部29学科が揃った総合大学です。自分の将来を見据えて学部・学科を選択することができます。僕の所属する経営学科は、同じ経営学の中でもマーケティングや組織論などそれぞれの分野のスペシャリストがいるので正確に深く理解することができます。経営学に限らず中部大なら各分野のスペシャリストを目指すことができますと思います」

語句説明

ISO14001は、国際標準化機構が1996年に制定した規格で、組織（企業・自治体など）に対して環境に負荷をかけない事業活動を継続して行うように求めた規格です。例えば自動車メーカーが排水を20%削減できるよう作業工程を見直すなど、企業が独自に環境に配慮した目標を掲げて、それを達成できるよう企業全体で取り組んでいきます。

ISO22301は、災害や金融危機などが発生した場合に、組織（企業・自治体など）がいち早く事業を再開・継続させることができるように対策を立案し、効果的に対応できるように求めた国際規格です。

ESDは、持続可能な開発のための教育 (Education for Sustainable Development) の頭文字をとったもので、これから先もずっとこの地球で私たちやその次の世代の人々が幸せに暮らしていくにはどうしたらいいのか考えていくものです。環境、福祉、平和、こども、国際理解など多岐にわたる分野を一人一人が考え、新しい社会・仕組みがつけられることが期待されます。

関連情報

中部大学ESDエコマネーチーム
Facebook

国際ESDセンター

経営情報学部

3.2013年度の活動

3.2 チャレンジサイト

プロジェクトテーマ名 学生主体の事業継続マネジメントシステム

学生リーダー 経営学科 小寺章史
プロジェクト指導者 経営学科 伊藤佳世准教授

プロジェクトの活動内容

中部大学ESDエコマネーチームでは、標準を使う⇒作る⇒教えるという実践型の標準化人材育成を行っている。特に環境及びマネジメント分野に焦点を当て活動を行っている。2013年度は、テーマを環境から有事のリスク管理に広げ、事業継続マネジメントシステムに関する標準化ゲーム「会社をまもろう」を産学官民連携して開発した。また産業界や地域、小学生から大学生までを対象に標準化に関する理解を広げることを目的とし、開発した教材を様々な環境イベント（全国環境ISO学生大会、環境デーなごや2013、エコプロダクツ2013等）において展示及び実演をした。チームのメンバーがファシリテーターとして来場者の支援をすることで学生の力量を向上することも目的とした。

※ 事業継続マネジメントシステムとは、リスクマネジメントの一環で有り、企業がリスク発生時にいかに事業の継続をはかり、取引先に対するサービスの提供の欠落を最初上gんにするかを目的とする経営手段である。

プロジェクトの経過

- 4月： 中部大学ESDエコマネーチーム2013結成
Nagoya 学生EXPOでの展示＋実演（昨年度教材）
- 5月： ESD教育研究活動発表会での発表⇒学長賞受賞
- 6月： 新規教材開発と改訂
- 8月 中部大学フェアでの実演
全国環境ISO学生大会主催
- 9月 経済産業省、日本規格協会での実演
香港大学での授業
環境デーなごやでの展示＋実演
環境経営士養成講座
愛知商業高校での標準化教室
- 10月： 春日井祭りでの展示＋実演
中部大学祭での展示＋実演
- 11月： 水俣市での実演
環境管理責任者向けの実演
- 12月 エコプロダクツ2013での展示＋実演
- 2月： こどもサイエンス王国での実演
成果発表準備

3.2013年度の活動

3.2 チャレンジサイト

こどもから大人まで楽しみながら経営及び事業に関するリスク管理方法を学ぶための良い標準化教材に近づけるよう、チーム一丸となってプロジェクトを進行した。何度も試行錯誤を積み重ね、さらに、標準化教育に実績のある経済産業省や日本規格協会のコメントや環境デーなごやでの実演を通じて得たコメントを基に、教材の改訂を行った。中部圏内の主要産業の環境管理責任者で構成する研究会、エコプロダクツ2013等で展示+実演を行った。様々な組織より教材を採用したいという打診があった。

なお、教材開発と併行して以下の内容にも取り組んだ

1. 第7回全国環境 ISO 学生大会の主催

「日本をつなぐ、未来へつなぐ」をテーマに、開催した。環境人材育成と環境マネジメント分野の標準化人材育成を目的に、各大学のEMS及び環境活動の今後だけにとどまらない、環境についてより広く深い視点の議論をした。

2. 統合マネジメントシステムの運用

3つのマネジメントシステムの国際規格 (ISO14001、ISO22301、ISO20121) をチーム全体で導入し、全ての活動を対象に進捗状況を随時管理した。

- 4月 中部大学ESDエコマネーチーム2013のサステナビリティ方針策定
目的目標実施計画の策定
- 7月 統合マネジメントシステム中間マネジメントレビュー
- 11月 統合マネジメントシステム内部監査
- 1月 統合マネジメントシステムマネジメントレビュー+報告書作成

3. スマートムーブの推進

環境省のプロジェクトを産学官民連携で推進した。
学生代表として以下のイベントでスマートムーブの啓発活動を行った。

- 2013中部大学フェア
- 環境で一なごや2013中央行事
- 中部大学祭り

4. 標準化スキルマップを用いた力量評価

標準化スキルマップを用いて、チームメンバーが活動を通じて得た力量について自己評価を行った。

3.2013年度の活動

3.2 チャレンジサイト

プロジェクト成果の公表

中部大学ESDエコマネーチーム（Facebook）を通じて随時プロジェクト内容および成果の公表を行っている。

さらに、ゼミのHPでゲームを公開している

展示発表については、官民向け会議1回、学術会議1回、授業2回、行政向け実演1回、本学イベント5回、産業界向け会議での実演3回を実施した。

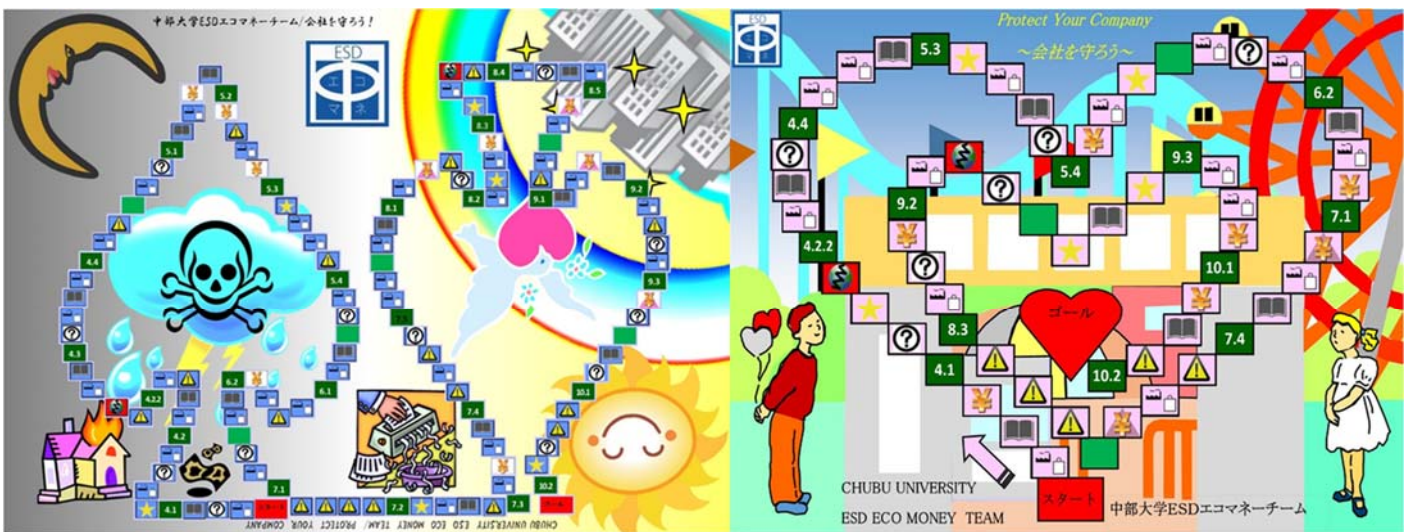
種類	日時	名称	場所	対象	体験者数
学術	7月23日	環境及び国際標準化における人材育成	中部大学	学生、一般	50名
	8月30日	日本工業教育協会での講演	新潟大学	標準化教育担当者	30名
	9月2-3日	経済産業省・日本規格協会での実演	経済産業省 日本規格協会	標準化専門家	10名
	9月7-8日	香港大学での授業	香港大学	博士課程学生	20名
	9月13日	愛知商業高校での授業	愛知商業高校	高校生	20名
イベント	5月19日	NAGOYA学生EXP02013	もちのき広場	学生、一般	100名
	9月14日	環境デーなごや	エンゼル広場	学生、一般	100名
	10月19-20日	春日井祭り	春日井落合公園	学生、一般	800名
	12月12-14日	エコプロダクツ2013	東京ビッグサイト	学生、一般	200名
産官	11月20日	水俣市役所での実演	水俣市役所	環境政策担当者	2名
	12月6日	マネジメントシステム研究会	ニッコー株式会社	環境管理責任者 (中部エリア)	20名
大学行事	5月8日	中部大学ESD研究活動発表会	中部大学		50名
	8月23日	中部大学フェア	中部大学		50名
	8月26-27日	第7回全国環境ISO学生大会	中部大学		120名
	11月2-4日	中部大学祭	中部大学		30名
	2月22日	第2回こどもサイエンス王国	中部大学		30名

[文責:小寺章史/委員長]

3.2013年度の活動

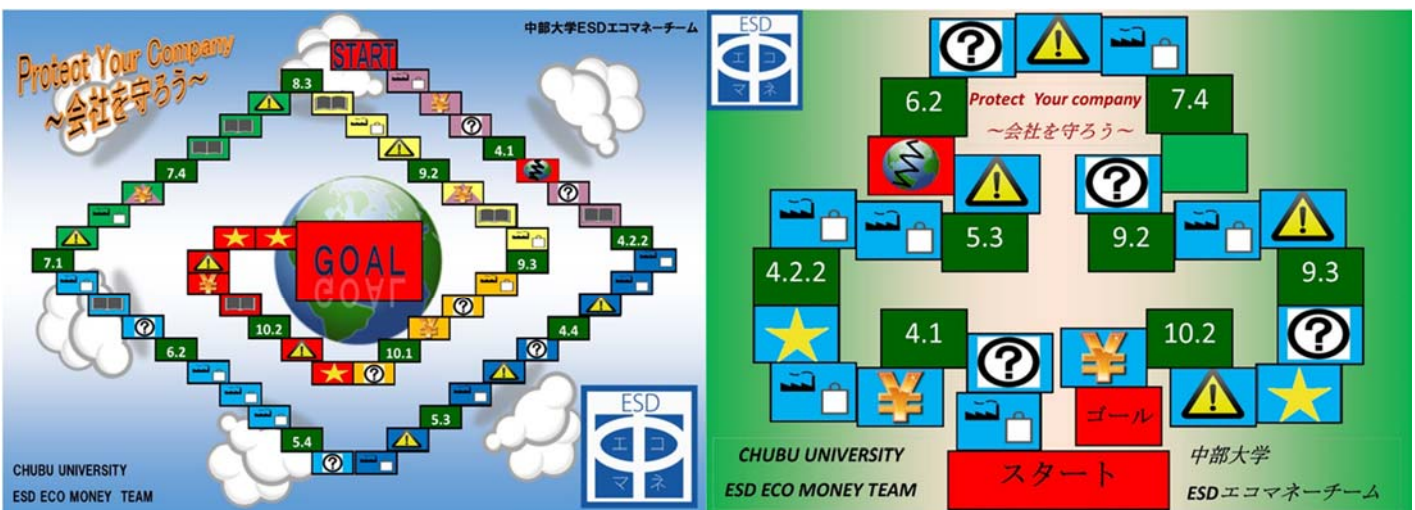
3.2 チャレンジサイト

こどもからお年寄りまでを対象とした事業継続マネジメントシステムの標準化教材を開発した。人生ゲームの形式の教材で、楽しみながら経営者として自社のBCMを構築し、企業経営、環境経営、事業マネジメントシステム及び関連分野の国大標準を学習できるようになっている。内部監査等で使うことを目的とした完全版とイベント等での使用を目的とした簡易版3種類を作成した。



4,5人で6時間程度

4,5人で1時間半程度



4,5人で1時間半程度

3人で30分程度

3.2013年度の活動

3.2 チャレンジサイト

複数のカードを用いて事業継続マネジメントシステムを学習する。

- 要求事項カード：ISO22301の要求事項を読み、経営者として自社に当てはまる設問に答えながら要求事項の内容を理解する
- ブック（学習）カード：関連する国際標準を学習する
- イベントカード：会社経営を体験する
- ハプニング：事業継続に関するハプニングを体験する
- 投資カード：事業継続を行うために投資をするか否かを検討する。

ゲーム時使用するカード

4.1 組織の状況及びその状況の理解

組織活動を継続するためには、リスクに関する組織の状況を把握する必要がある
事業継続：事業の中断・阻害などを引き起こすインシデントの発生後、あらかじめ定められた許容レベルで、製品又はサービスを提供し続ける組織の能力
インシデント：中断・阻害・緊急事態または危機になり得るまたはそれを引き起こし得る状況
重大事故に至る可能性のある事態であって、なおかつ実際には事故に繋がらなかった潜在的事例のこと
ただし情報セキュリティにおいては実際に発生した事故も含む

①

4.1 組織の状況及びその状況の理解

0. 組織に関するリスクには何がありますか？
そのリスクによる影響も説明しなさい。

1. 製品・サービスに関する事故
2. 企業の信頼性低下
3. 自然災害・テロ
4. その他

②

事業(予算)の拡大

BCMに関する事業(予算)を拡大しました。

お金が50万円もらえます。

③

社会セキュリティ用語

<内容>社会セキュリティに関する一般的な用語およびその定義について規定
<委員会> ISO/TC 223(社会セキュリティ)
<規格> ISO 22300:2012

④

社会セキュリティ用語

ISO 22300
社会セキュリティ用語規格
社会セキュリティに関する用語の定義について規定した国際規格
国際規格で使用されている用語がまとめられている

⑤

台風

台風による被害が発生しました。

サイコロ1～2	サイコロ3～4	サイコロ5～6
20%の損害です。 20万円失います。	40%の損害です。 40万円失います。	60%の損害です。 60万円失います。

⑥

①要求事項カード(表) ⑤ブックカード(裏)
②要求事項カード(裏) ⑥ハプニングカード
③イベントカード ⑦投資カード
④ブックカード(表)

台風の対策をするための投資をしますか？

- ① 台風の対策をするために50万円で作成します。
20%までの損害を防ぐことができます。
- ② 台風の対策をするために100万円で設備投資を行います。
40%までの損害を防ぐことができます。
- ③ 台風の対策をするために200万円に対策本部を設置します。
100%損害を防ぐことができます。

⑦

[文責：小寺章史/委員長]

3.2013年度の活動

3.3 エコプロダクツ 2013

活動内容

日時 2013年12月13-15日

場所 東京ビッグサイト

公益財団法人日本規格協会と共同出展した。チーム2013で開発した事業継続マネジメントの標準化ゲーム「会社を守ろう Protect your company」を用いて、展示及び実演を行い、来場者が経営者としていかに事業継続を行うか体験することと標準化に関する理解を高めることを展示の目的とした。

成果

私たちはゲーム作成時に老若男女の方が対象のゲームを作成しようと決め活動してきた。試行錯誤し制作した結果、幅広い年齢層の来場者がブースに訪れてきていただき、とても有益な時間と空間になった。

またチーム全員が教育をするために必要な知識を学びとても良い学習の機会になった。



[文責:小寺章史/委員長]

3.2013年度の活動

3.4 全国環境ISO学生大会

活動内容

日時 2013年8月26－27日

場所 中部大学

テーマ「日本をつなぐ 未来へつなぐ」

環境マネジメントシステムに関わる学生を対象に、第7回全国環境ISO学生大会（主催：中部大学）を開催した。本大会は約200名の“環境系学生”が全国から集まり、日々のEMSの活動を踏まえて新たな活動の可能性を創造する他にないイベントであった。

成果

第7回全国環境ISO学生大会は多くの人と環境について意見を共有でき、素晴らしい大会になった。多くの人や、違う環境で学んでいる人の意見を聞いたので全国環境ISO学生大会の経験をいかし、様々な活動に取り入れることができた。また、意見交換を通して今後の課題も出てきたのでとても有益な行事になった。



[文責：小寺章史/全国環境ISO学生大会委員長]

3.2013年度の活動

3.5 産学官民連携 ①スマート・ムーブ

活動内容

日時 2013年4月～12月
中部大学フェア[中部大学]
環境デーナゴヤ[久屋大通]
大学祭[中部大学]
対象 一般
産学官でスマート・ムーブの啓発活動を行う。

成果

今年から中部大学ESDエコマネーチームと環境省の共同プロジェクトを始めた。ゼミの時間や空き時間を利用し、スマート・ムーブとは何か。どのように一般の人にプレゼンし、アンケートを回収するかなど話し合い練習した。中部大学ESDエコマネーチームは様々なイベントに出展しているため多くの場面でスマートムーブを紹介し、アンケート回収することができた。またスマート・ムーブの知名度があまり高くなかったため、私たちの活動で多少ではあるが、一般の方に周知させることができた。



報道発表資料

平成25年7月1日
「スマート・ムーブ～「移動」を「エコ」に。～」キャンペーンについて(第2報)(お知らせ)

環境省では温暖化防止活動の一環として、「移動」を「エコ」に。をテーマに、よりCO2排出量の少ない「移動」を推進する「smart move(スマート・ムーブ)」キャンペーンを展開しています。
このスマート・ムーブを東海エリアで促進するため、7月1日からスマート・ムーブ～「移動」を「エコ」に。～in東海エリアキャンペーン(運営主体:(株)JTB中部法人営業名古屋支店、(株)ウェストボックス)を実施します。
具体的には、愛知県、名古屋市、(株)名古屋グランパスエイト、名鉄協商(株)、中部大学ESDエコマネーチーム等と連携し、「スマート・ムーブ普及啓発プロジェクト」、「スマート・ムーブフォトギャラリープロジェクト」等を展開します。

2. 地元学生団体との連携によるスマート・ムーブ啓発活動
中部大学ESDエコマネーチームを通じて、学生からのスマート・ムーブ啓発活動を行います。具体的には、中部大学を始め、地元大学の大学祭などに専用ブースを設けて、スマート・ムーブのPRとともに賛同者の募集を行います。
- <主な出展予定>
- ・2013中部大学フェア
日程:8月23日(金)
会場:中部大学キャンパス内(愛知県春日井市松本町1200)
 - ・環境デーなごや2013中央行事
日程:9月14日(土)
会場:久屋大通公園(エンゼル広場・久屋広場・光の広場)
 - ・第49回中部大学祭
日程:11月2日(土)～4日(月)
会場:中部大学キャンパス内(愛知県春日井市松本町1200)

中部大学ESDエコマネーチーム2013

スマート・ムーブ～「移動」を「エコ」に。～in東海エリアキャンペーン

中部大学ESDエコマネーチームを通じて、学生からのスマート・ムーブ啓発活動を行います。中部大学を始め、地元大学の大学祭などに専用ブースを設けて、スマート・ムーブのPRとともに賛同者の募集を行います。

- ・2013中部大学フェア : 8月23日 中部大学キャンパス内
- ・環境デーなごや2013中央行事: 9月14日 久屋大通公園
- ・第49回中部大学祭 : 11月2日～4日 中部大学キャンパス内



[文責:小寺章史/委員長]

3.2013年度の活動

3.5 産学官民連携 ②経済産業省・日本規格協会

活動内容

日時 2013年9月2-3日

場所 日本規格協会
経済産業省(JISC)

対象 標準化専門家

成果

日本規格協会と経済産業省における国際標準化や標準化教育担当の方々向けに、今年度中部大学ESDエコマネーチームが開発したBCMの標準化ゲーム「会社を守ろう!」のプレゼンと実演を行った。専門家の方々から貴重なコメントを多数拝受し、とても良い経験となった。

発表後にコメントを用いて教材の改訂版を作成することができた。また、その結果を環境イベント等で公開したが、その際には共同出展を実現できた。



[文責:小寺章史/委員長]

3.5 産学官民連携 ③MS研究会での発表

活動内容

日時 2013年12月6日
場所 株式会社ニッコー
対象 環境管理責任者

成果

産業界の方々を対象に、チームが開発した事業継続マネジメントシステムの標準化ゲーム「会社を守ろう」の発表と実演を行った。
日頃マネジメントシステムをそれぞれの会社で担当している社会人の方々と意見交換を行うことで、マネジメントシステムの標準についても様々な考え方があることが学べた。



[文責:小寺章史/委員長 小川大紀/監査部 部長]

3.2013年度の活動

3.5 産学官民連携 ④水俣市役所

活動内容

日時 2013年11月19－22日
場所 水俣市役所
対象 環境モデル都市推進課

成果

水俣市環境モデル都市推進課の職員の方を対象に、チームがこれまで開発した2つの標準化教材(1.環境マネジメントシステム:もし社長だったら、2.事業継続マネジメントシステム:会社を守ろう)の実演を行った。

行政として環境マネジメントシステムに先進的に取り組み、成果をあげてきた水俣市において今後環境教育の教材として教材を活用いただけることになったことは非常に意義深い。また、滞在中に水俣病のことやESD、環境モデル都市の活動を学習することができた。



[文責:小寺章史/委員長]

3.2013年度の活動

3.5 産学官民連携 ⑤愛知商業高校

活動内容

日時 2013年9月13日
場所 愛知商業高校
対象 高校生

成果

愛知商業高校において環境プロジェクトを実践している委員会の生徒を対象に、ESD活動の一環として、中部大学ESDエコマネーチームが開発した環境マネジメントシステムの標準化ゲーム（もし社長だったら）を使って授業を行った。講師は小寺章史、小川大紀、伊藤百合香、山口菜々望が担当した。

後日愛知商業高校の皆さんよりお手紙を拝受した。今後差し上げた教材を用いて学習を続けていくとともに後輩に伝えていきたいという声を得ることができた。

また、商業高校で実施しているミツバチプロジェクトについて見学できた。



[文責：小寺章史/委員長]

3.2013年度の活動

3.5 産学官民連携 ⑥香港大学

活動内容

日時 2013年9月7-8日

場所 香港大学

対象 博士後期課程の学生（社会人）

成果

IS014001の教材として中部大学ESDエコマネーチームが開発した If you were Presidentを用いた。

履修者から、IS014001の要求事項を楽しみながらきちんと理解出来たという授業評価を得ることができた。また教材をチームの学生（学部生達）が開発したことに対して賞賛を受けた。さらに、履修者の大半が、社会人であることから、是非自社でも活用したいという声を得ることができた。学生達が開発した教材が国境を越えて授業教材としても通用することが示された。なお、チームからの寄付として教材を香港大学にお渡した。



[文責:伊藤佳世/教員]

3.2013年度の活動

3.6 環境イベントでの展示:①NAGOYA学生EXPO2013

活動内容

日時 2013年4月13-15日

場所 久屋大通公園

対象 一般

NAGOYA学生EXPO2013は愛知県内の大学生が中心となった合同大学祭である。

中部大学ESDエコマネーチーム2013としての初出展であった。2012年度に開発した標準化ゲーム「もし社長だったら」を展示し、持続可能な人材育成への貢献や、参加者・来場者の環境学習及びエネルギー学習を行った。また、8月26-27日に中部大学で開催される全国環境ISO学生大会の広報活動を行った。設営準備にも参加し、様々な大学の学生と交流を行った。

成果

展示経験が初めてのメンバーが多かったが、当日は、たくさんのメンバーが積極的に動けており、来場者の方をしっかりと対応することができた。様々な方との交流により、一人ひとりのコミュニケーション能力が向上したと思う。また、教えるという能力も身につけることができたので、今後のイベント等でその力を発揮し、チームに貢献できると思われる。さらに、他大学との交流も積極的に行ったので、全国大会の告知もできた。

持続可能なイベントマネジメントシステムでは、公共交通機関を活用することでCO2の削減やゴミの削減・分別、騒音防止を行うことができ、ESDの活動では持続可能な人材育成への貢献、環境学習及びエネルギー学習、ESDの周知を行うことができた。



[文責:澤田あずさ/地域部部長]

3.2013年度の活動

3.6 環境イベントでの展示:②環境デーなごや

活動内容

日時 2013年9月14日

場所 久屋大通公園

対象 一般

経済産業省や日本規格協会の方々からいただいたコメントをもとに改定した事業継続マネジメントシステムの標準化教材(会社を守ろう!)の展示及び実演をし、来場者の方に楽しく学んでもらった。

また、環境省と共同で行っている「スマート・ムーブの普及啓発活動」も同時に行い、来場者の方にスマート・ムーブの説明とアンケート調査を行った。

成果

改定作業を行った直後のゲーム展示・実演だったが、メンバーが柔軟に対応し、来場者の方に楽しく事業継続マネジメントシステムを学んでもらうことができた。

スマート・ムーブの普及啓発活動も積極的に行い、ブースに来て下さったほとんどの方に周知できた。

持続可能なイベントマネジメントシステムの活動として、公共交通機関の使用及びカーシェアリングによるCO2の削減やエネルギーの削減、騒音防止に取り組んだ。ESDの活動として、他のブース及び出展者との交流による環境学習やESD及び標準化の周知を行うことができた。



[文責:澤田あずさ/地域部部長]

3.6 環境イベントでの展示:③春日井祭り

活動内容

日時 2013年10月19-20日

場所 春日井市落合公園

事業継続マネジメントシステムの標準化ゲーム「会社を守ろう」の展示・実演、スマート・ムーブの普及啓発活動を行った。また、春日井祭りでは、お祭り内で行われたイベント「クイズラリー」にもチームで参加し、お子様でもわかりやすく学べるようなスマート・ムーブに関するクイズを展示した。

成果

他のイベントに比べて、春日井祭りの来場者は子どもが多く、標準化ゲームを教える側の能力も求められた。一日目は一年生中心のメンバーだったが、今までのイベントを通してメンバーの力量も上がっていたので、子どもでも理解できるように説明できていた。もう一度ゲームを体験したいという子も多数いた。二日目は、残念ながら大雨のため出展中止となってしまったが、他のブースの責任者の方からゲームを体験した感想などをいただいた。

持続可能なイベントマネジメントシステムの活動として、公共交通機関の使用及びカーシェアリングによるCO2の削減やエネルギーの削減、騒音防止に取り組んだ。ESDの活動として、他のブース及び出展者との交流による環境学習やESD及び標準化の周知を行うことができた。



[文責:澤田あずさ/地域部部長]

3.2013年度の活動

3.6 環境イベントでの展示:④中部大学フェア

活動内容

日時 2013年8月22日

場所 中部大学

チームの活動の周知を行うために参加。経営上情報学部のブースで、事業継続マネジメントシステムの標準化教材の展示・実演を行い、スマート・ムーブの啓発活動も行った。大学内、地域内の方々にチームの活動内容や標準化、スマート・ムーブについて知ってもらい、アンケートに答えてもらった。

成果

チームの活動を大学内の方や地域の方々に知ってもらうことができたと共に、学校内でどのような研究が行われているかなど、他の学科での活動について学ぶことができた。また、空き時間には チームメンバー同士でゲームの教え方について話し合い、力量アップを行った。

持続可能なイベントマネジメントシステムでは、公共交通機関の利用及びカーシェアリングによるCO2の削減を行い、ESDの活動では地域・学校内との交流においてESDや標準化の周知、チームメンバーの力量の向上を行うことができた。



[文責:澤田あずさ/地域部部長]

3.2013年度の活動

3.6 環境イベントでの展示:⑤大学祭

活動内容

日時 2013年11月1-5日

場所 中部大学

中部大学で行われた学園祭を利用して、私たちECOマネーチームが活動しているISO標準化教育ゲーム（ISO22301：事業継続マネジメントシステム）を3年生が中心となり運営し、学祭にお見えになった様々な人にプレイしていただいた。

なお、大学祭期間中は、1年生は統合マネジメントシステム文書類の作成を担当した。

成果

展示については、何か月も前から学祭の説明会に参加して、万全の準備で挑んだ。そのおかげで、運営もうまくいった。当日中々お客様が集まらず苦戦したが、試行錯誤し呼び込みを頑張ったおかげで、連日ともに様々な老若男女が来てくださった。日ごろから私たちはISOについて学んでいるが、普通の人々には浸透しておらず、一回のゲームでそれを学んでいただくことはとても難しいものと感じた。

統合マネジメントシステム文書類作成については、書記部の指導のもと、文書原案の作成および改訂を行った。



[文責:寺井勝也/大学祭担当]

3.2013年度の活動

3.6 環境イベントでの展示:⑥こどもサイエンス王国

活動内容

日時 2014年2月22日

場所 中部大学

こどもサイエンス王国とは小中学生に科学のおもしろさを理解してもらうことを目的としている。

研究開発と標準化は科学技術を推進する上で大きな役割を担う。チームでは従来から標準を使う⇒作る⇒教えるという活動を通じて標準化人材育成を行っている。

こどもサイエンス王国に参加し、事業継続マネジメントシステムの標準化教材「会社を守ろう」の展示・実演を行った。来場者に標準化教材やチームの活動内容などを知ってもらい楽しんで学んでもらうことを目的とした。

成果

展示をするスペースが奥のわかりづらい所だったため、あまり人が来ず苦労した。

1年生だけで展示及び実演の対応を行った。そのため、教材を通じて、標準化について学んでもらうことがいかに難しいものか再確認し、それをさらにお子さんに噛み砕いた説明ができるか不安もあったが、何とか一日を大きなミスなく終えられたことはよかった。

ただ、先輩に比べて知識量の差が歴然なのでこれから学んでいかなければいけないと感じた。さらに、コミュニケーション能力を向上させないとお客様により楽しんでもらえないから話の内容を含めたしゃべり方についても向上さなければいけないものだと感じた。



[文責： 池田敬介]/1年副委員長]

3.2013年度の活動

3.7 統合マネジメントシステム

活動内容

チームではチーム全ての活動を対象に3つのマネジメントシステムに関する国際標準規格を統合マネジメントシステムとして運用している。

ISO14001(環境)、ISO20121(イベント) ISO22301(事業継続)

11月に内部監査を行い、システムとパフォーマンスを検証した

成果

統合マネジメントシステムは書記部が中心となって構築し監査部が運用状況の監査を行った。国際標準規格を取り入れ運用していくことの難しさを肌で感じることができ、各メンバーはPDCAサイクルを回すことにより業務の継続的改善とはどのようなものか体験できた。また、運用によりマネジメントシステムや監査について理解を深め今後、社会に出るにあたり良い経験となった。



[文責:小川大紀/監査部 部長 落合紳悟/書記部 部長]

3.2013年度の活動

3.8 ピアサポーター:恵那研修

活動内容

恵那研修は、大学生の心得や社会人としての礼儀やマナーを教育すること。新入生が大学生活に慣れ、友人をつくるためのきっかけづくりとして中部大学が開学以来行っている大学行事である。

チームの主力メンバーがピアサポーターとして経営学科の恵那研修の企画立案から運営までを担当した。

成果

ピアサポーターとしての成果

自分達も再度大学生としての心得を見つめ直すことができた。初めて大学行事の企画立案、運営等を行い、恵那研修で得たノウハウをその後のチーム活動に活かすことができた。

教員の方々から、これまでの恵那研修のなかでも一番よかったと高い評価を得ることができた。

恵那研修のスタッフの動きを見て、チームに入ってくる1年生が多数現れたことも成果である。



[文責:小寺章史/初年次ピアサポーターリーダー]

3.2013年度の活動

3.9 キャリアリーダー

活動内容

中部大学におけるキャリア教育の推進及び学生の視点を取り入れることを目的にキャリアセンターと協力しながらキャリア教育プログラムの企画・立案を行った。
現在のキャリア教育の課題、学生のニーズにあったキャリア支援、効率的かつ効果的なキャリア教育の実現方法等を検討した。また、いかに学生がキャリアセンターを活用しやすくなるかという方法の提言を行った。

成果

小寺章史、小川大紀、伊藤百合香がキャリアリーダーとして活動を実施し、キャリア教育委員会において発表をした。

その後、キャリアセンターと協力しながら学生の声を取り入れ、改善を試みたところ、大学のキャリア教育を受ける学生の態度に変化が現れ、積極的にキャリア教育プログラムを活用する学生が現れてきた。

春日井ビジネスフォーラムの効率的な運営が実現できた。スタッフとして、企業見学に参加することで様々な企業の活動を体験することができた。



[文責:小寺章史/キャリアリーダー代表]

4.主要部門の活動成果

4.1 委員長

主要な活動

学生主体の標準化人材育成、環境人材育成の推進
産学官民連携の推進
チーム活動のとりまとめ
全国環境ISO学生大会の主催
その他：中部大学キャリアリーダー
初年次ピアサポーターのリーダーとしての活動



成果

様々な環境イベントを通じて中部大学ESDエコマネーチームの活動を周知できた。
産業界等から連携等の声を数多く頂き、実現できた。
環境分野の標準化人材育成については、標準を使う⇒作る⇒教えるという標準化人材育成の目標を立て、この目標実現のために活動を行い、教材の開発や展示等を通じて目標を実現できた。あたりまえのこととして環境や標準の視点から物事を考えることができるようになった点も評価できる。チームの責任者として活動を行ったが、チームが一つとなった時の力を実感できるとともに、多くの人をうごかしていくという難しさも学んだ。

達成状況

チーム活動を通じて、エコプロダクツ展、全国環境ISO学生大会、チャレンジサイト、標準化スキル、みなまたでの学習等、非常に良い成果を上げることができた。
メンバーの日々の努力のたまものである。とても良いチームができたと思う。
私たちは、年間を通して様々な活動を行ってきた。チームの活動に対して様々な方々より多大な支援をいただいた。
チームを代表し、ここに感謝の意を記したい。

- 中部大学：チャレンジサイト、全国環境ISO学生大会、恵那研修、キャリアリーダー活動に対する支援
- 日本規格協会、経済産業省：標準化ゲーム開発及び共同展示
- 環境省：スマート・ムーブ活動の推進

[文責：小寺章史/委員長]

4. 主要部門の活動成果

4.2 副委員長

主要な活動

委員長のサポート業務。また、部長と共にチームを運営するため各部との連携を行うこと。主にスカイプを活用し、チームのメンバーに指示や呼びかけを行い、チームの円滑な運営をすること。
また、標準化教育部の部長を兼任していたため、標準化ゲームの開発を担当した。



成果

各部との連携を行い、チームの運営をスムーズに行えた。目的・目標・実施計画を順守し、チームの運営が円滑にいくよう努め、達成できた。

チームのメンバーに様々な連絡や指示を行い、標準化人材教育のための教材としての標準化ゲームの作成や、様々なイベントへの出展を行うことができた。また、副委員長として自らが率先して行動に移すことでチームのメンバーをまとめることのできるよう努めることができた。

達成状況

委員長のサポート業務として、委員長の代わりとしてチームのメンバーに指示などを行った。しかし、標準化教育部の部長としての活動もあり、そちらを優先してしまっていた時もあり、委員長のサポートがおろそかになっていたことも否めない。

チームの運営は各部との報連相をスカイプなどの連絡手段を用い、円滑に行うことができた。しかし、チームの全員との報連相が十分に行えたわけではなく、一部のメンバーとは行うことができなかった。チーム全体としては円滑に運営できていたように見えたが、細かく見るとチームの活動に参加していたのは一部のメンバーに限られ、実際は限られたメンバーで活動していたということが現状である。

来期では副委員長としての役割、活動などをさらに明確化し、行動に移しやすい状態を作り上げる必要があるように思う。

また、チーム全体の円滑な運営のために、チームのメンバー全員に報連相の重要性を理解させ、徹底させる必要がある。

[文責:小寺和希/副委員長]

4.主要部門の活動成果

4.3 標準化教育部

主要な活動

事業継続マネジメントシステムを学ぶための教材として、新たに標準化ゲームを開発すること。また、開発した教材を用いてチーム内での標準化教育を行い、ファシリテーターとしての力量を身に付けることで、展示の際、一般の方にも分かり易く、楽しみながら学んでいただけるようになることを主要な活動としている。



成果

標準化人材教育のために、事業継続マネジメントシステムを学ぶための教材を作成し、ゲームの改訂作業や教育の機会を通してゲームのルールを覚えてもらい、イベントなどへの出展や実演を通して様々な年齢層の方を相手に対応できるようになる等、ファシリテーターとしての力量向上を図った。また、標準化ゲームの作成及び実演を通し、事業継続マネジメントシステムについての理解を深めることができた。

達成状況

ゲームの作成は、まず三年生が基盤を構築し、どのようなゲームにするのか、ルール作りとデザインを担当した。完成した試作品をテストプレイしながら意見を出し合い改訂案を提出し、まとめた意見をどう取り入れるか話し合うためにスカイプでワーキンググループを作って改訂作業を行った。その後、2回程テストプレイを行い、外部の方にも協力していただいて改良を重ね、標準化ゲームを完成させた。

結果として、中学生以下のお子さんには難しく、保護者同伴で行ってもらうことが望ましいが出展ではファシリテーターが言葉をかみ砕いて説明する等尽力し、内容の理解には至らなかったかもしれないが、無事ゴールまでたどり着くことが出来ていた。

今回のゲームには、完全版と簡易版の他に、簡易版より短い簡易版を一般の方向けとしてイベント出展用に作成した。

ファシリテーターの力量は出展が可能ではあるものの差があるので、より理解し説明できるように向上が必要であると感じる。

[文責:小寺章史/初年次ピアサポーターリーダー]

[文責:小寺和希/標準化教育部部長、 山口菜々望/標準化教育部副部長]

4. 主要部門の活動成果

4. 4 地域部

主要な活動

地域部は、様々な環境イベントやボランティアに参加し、地域・社会貢献を行う部である。イベントを通して、たくさんの方々に標準化を学んでもらうと共に、チームの活動について知ってもらうことや、持続可能なイベントマネジメントシステムを運用すること、さらに、様々なイベントに積極的に参加し、自身の能力の向上や環境学習を行う（Facebookで報告）ことが地域部の主な活動である。

イベントの管理、外部との連絡、書類の作成・提出、打ち合わせなどの事前準備も地域部が行う。尚、地域部はチームメンバー全員が所属している。



成果

老人ホームなごやかハウス（4月3日）	デンソー 地域クリーンアップ活動（5月5日）
春日井わくわくカーニバル（5月12日）	NAGOYA学生EXPO（5月18・19日）
名古屋市環境局の方との活動計画会議（6月18日）	デンソー ハートフル祭り（7月7日）
中部大学フェア（8月23日）	環境デーなごや（9月16日）

達成状況

この一年間で様々なイベントに参加でき、たくさんの方々に標準化やESD、チームの活動内容の周知を行うことができた。実際にゲームの展示を行って気付けたことも多くあったので、その都度改善することができた。また、各イベントを通してチームメンバーの能力の向上に貢献することができた。

外部との連絡は迅速に対応でき、企画書などの書類は全て期限内に提出することができた。全イベントの議事録作成も達成している。

しかし、イベントに参加できなかったメンバーの能力向上のフォローや、持続可能なイベントマネジメントシステムの周知を怠ってしまったため、チームメンバーの自覚が足りなかった。来期は欠席者のフォローや公共交通機関の利用、ゴミの分別などの持続可能なイベントマネジメントシステムの周知活動を行っていく必要がある。

[文責: 澤田あずさ/地域部 部長]

4. 主要部門の活動成果

地域部〔スポーツ班〕

主要な活動

地域部（スポーツ班）は、部活動の練習でイベントに参加できないメンバーで構成されており、練習後にゴミ拾いを行い、Facebookで報告している。



成果

野球部 5月19日、9月14日 10月19日、11月2-4日
ラグビー部 10月13日、19日、11月2-4日
サッカー部 10月19日、11月2-4日
にスポーツ班としての活動を行った。



[文責：小寺章史/初年次ピアサポーターリーダー]

[文責：小林佳輝/地域部スポーツ班班長]

4.主要部門の活動成果

4.5書記部

主要な活動

書記部は、統合マネジメントシステムの運用に必要な文書類の作成と進捗管理を担当している。

中部大学ESDエコマネーチームでは、3つのマネジメントシステムに関する国際標準規格（ISO14001・ISO20121・ISO22301）に準拠した統合マネジメントシステムを構築し、その運用・管理を行っている。

- ISO14001:環境マネジメントシステム
- ISO20121:持続可能なイベントマネジメントシステム
- ISO22301:事業継続マネジメントシステム

ゼミの時間の会議内容を議事録としてまとめている。議事録内容は、今後の活動を円滑に進めるために利用し、また、統合マネジメントシステムの監査にも役立てている。

成果

毎回のゼミを書記部のメンバーで順番に書いていくことにより議事録のまとめ方を身に着けることができた。それぞれのマネジメントシステムの特徴と自らの組織の活動をすり合わせ活動を定めていくのは難しく、それぞれのメンバーが標準や環境について考えることにつながりスキルアップすることができた。また、3つのマネジメントシステムに関する国際標準規格を知り、運用することによって標準化規格を使うメリット・デメリットも学ぶことができた。結果統合マネジメントシステムを11月に構築することができ、その監査を行った。

達成状況

もともと中部大学ESDエコマネーチーム2013が結成され活動を開始してすぐにマネジメントシステムを構築することであったが、ISO20121、ISO22301の2つのマネジメントシステムの要求事項を学び、3つのマネジメントシステムをすり合わせ統合マネジメントシステムを構築するのに後期までかかってしまった。11月に書記部内で理解の及んでいないメンバーに対し学習の場を設けたが、これを改善し、早い段階での国際標準規格の学習を設けスキルアップをしなければならなかったと感じた。

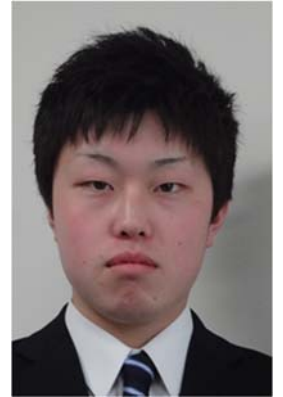
しかし、部内のメンバーはお互いのコミュニケーションが円滑であり、進行状況が明確であったのが良い点である。統合マネジメントシステムの中身は今後もさらに範囲は正確に、より緻密に改善を重ねていく必要がある。

[文責:落合紳悟/書記部 部長 寺井勝也 書記部副部長]



4.主要部門の活動成果

4.6 監査部



主要な活動

チームで運用している統合マネジメントシステムに関する内部監査の企画立案、研修実施、監査、見直しを担当した。監査終了後、内部監査チェックシート、所見書を元に監査報告書を作成した。監査準備としては、自身で規格を学習し、それをもとに、統合マネジメントシステム内部監査チェックシートおよび所見書のひな形作成を実施した。また、並行して監査員研修のために必要なPPTの作成、部員の教育等を実施した。研修では内部監査に関する講義と模擬演習を実施した。内部監査実施当日には、内部監査の進行役、ファシリテーターとしての関与および監査部以外のメンバーのアシスタントを行なった。

成果

11月27日の内部監査を行なうために10月2日より準備を開始した。まずはISOの学習からはじめ、それを元に内部監査チェックシート、所見書を作成した。

監査チェックシート作成時には、環境、イベント、事業継続の3つのマネジメントシステムの要求事項をISOが発行したマネジメントシステム高次文書を用いて整理し、共通して監査する内容とそれぞれの規格 独自で監査する内容を規定した上で、チェックシートを作成した。

内部監査当日は都合の悪い人を除き、全員が定刻に遅れず集合した。進行に関しては多少の遅延はあったがスムーズに行なえたといえる。

達成状況

内部監査における、Plan、Doは予定通りスムーズに行なうことができた。研修時に高学年と低学年を組み合わせたグループ編成を行い、執行部の学生が下級生の指導を随時行いながら研修を行った。内部監査当日はスムーズな進行ができ、全員が内部監査チェックシート、所見書をしっかりと書き込んで提出したという点を見ると成功だといえる。

しかしそれだけが監査部の役割ではない。監査終了後にメンバー全員の所見書を確認し、チーム全体として、何が上手くいって、何が上手くいっていないのか、を分析する必要がある。またそれを監査報告書として、文字として残す必要がある。それは来期以降のチームの活動に活かすためなのだが、その作業をまだ終わることができていない。早急に行い、それを開示しメンバー全員に周知しなければならない。監査報告書作成業務は監査部全員で協力して行い、部内の連携の強化を図る予定である。

[文責:小川大紀/監査部 部長]

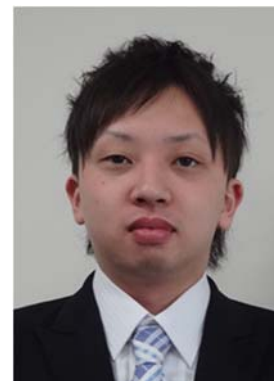
4.主要部門の活動成果

4.7 デザイン部

主要な活動

事業継続マネジメントシステムを学ぶための教材として、新たに標準化ゲームのデザインを作成すること。

また、チームの活動に必要な看板屋や広告に至るまで制作し、外部の方がひと目で理解できるようなわかりやすいデザインの作成とその掲示を主要な活動としている。



成果

標準化人材教育のために、事業継続マネジメントシステムを学ぶための教材を作成し、エコプロダクツ2013や、ほかのイベントでの展示では小さなお子様からお年寄りの方までが楽しんでいただいた。

全国ISO学生大会ではプログラムを作成し、スムーズに運営をすることができた。

達成状況

ゲームの作成は、まず3年生が基盤を構築し、どのようなゲームにするのか、ルール作りを行い、我々はゲームデザインを担当した。何度か試作品をテストプレイしながら意見を出し合い改定案を提出、その後ゲームのマスやデザインの改訂をしながら完成させた。

さらにエコプロダクツ2013にて様々な企業に向け、サステナビリティを作成しチームをより多くの方に理解していただけた。

しかし、部のメンバー全員とのスカイプでの報連相が十分に行うことができず、デザインを作成したのは部の中でも一部のメンバーがほとんどで実際にデザインに携わったメンバーが少なかったことが現状である。

来期ではスムーズに報連相を行えるような人選、部のメンバーの数を見直す必要がある。

[文責:後藤紫穂/デザイン部 部長]

4. 主要部門の活動成果

4.8 国際部

主要な活動

国際部はサステナビリティ方針や標準化教育部で作成した標準化ゲームの英語訳を行うことを主な活動としている。サステナビリティ方針や成果報告はFacebookで公開し、国際部の議事録も作成し、活動記録をまとめている。英語訳の他に本年度は、7月に行われた第11回中部大学ESDシンポジウムで「人を変える、未来を変える ～体験から学ぶ価値観、発見～」というテーマで損保ジャパンCSOラーニング生として公益財団法人OISCA中部日本研修センターでのインターンや全国合宿などの経験を報告した。



成果

サステナビリティ方針は英語訳の他に中国語訳も行い、Facebookに公開し、多くの人々に周知してもらった。また、標準化ゲームに関しては国際部による英語訳作業が終了し、残りは英語圏のネイティブの方に見てもらえることができれば完成するため、早急に完成を目指したいと思っている。

7月に行われた第11回中部大学ESDシンポジウムでは損保ジャパンCSOインターン制度を受けた国際部の3人でインターン先である公益財団法人OISCA中部日本研修センターでのインターン活動や関東、宮城、関西、愛知の各地区の皆が集まった全国合宿、修了式などで得た学びや成長をアウトプットすることができ、私たち自身も改めて良い経験をできたと感じることができた。

達成状況

サステナビリティ方針の英語訳と中国語訳は早めに作業ができたため、Facebookへの公開が目標より少し早めにできた。標準化教育部が作成した標準化ゲームの英語訳を国際部のメンバーが英語訳をする作業は順調だったが最後に行うネイティブチェックが人材不足により大きく遅延している。4月から人材募集をしているが、芳しくなかったことが原因である。Facebookや国際交流センターなどで呼び込みを行なっている最中であるため、早急に人員を見つけ完成を目指したいと思っている。



[文責: 伊藤百合香/国際部 部長]

4.主要部門の活動成果

4.9 情報部 広報部

主要な活動

広報部…ESDエコマネーチームが参加・出展するイベントについてWEB上に出展内容や組織について文章を作成し周知させることを行っている。

情報部…作成されたデータはサーバで管理しているためIT機器の保守を行っている。



成果

広報部…参加・出展したイベントには多くの方が足を運んでくれたことから効果があったと実感した。また、事業継続マネジメントシステムのゲームを体験したことにより「楽しみながら学べる教材」を広めることができた。

情報部…期中にサーバに接続できなくなるトラブルが発生したため、作業が滞る事態が発生した。一部設備の交換、再構築し事態収拾を図った。

達成状況

広報部…ゲームがどのようなものか、対象は誰なのかを完成した試作品をテストプレイし確認し、内容がつかめるような文章を完成させた。結果として、人は多く足を運んでくれたが、周知方法を増やすことなどまだまだ改善点がみられた。

情報部…サーバにアクセスできなくなるトラブルが数回あり、その後完全に接続できなくなってしまった。データには影響はなかったがデータをアップロードできなくなり作業が滞ってしまった。今後は兆候がみられたら早めに手を打つなどの必要を感じた。

[文責:谷口幸大/広報部 兼 情報部部长]

5. 目的目標達成状況

I 学生主体のESDを通じて行う自主的な環境活動支援、標準化人材育成への寄与

I 学生主体のESD活動を通じて行う自主的な環境活動支援、標準化人材育成への寄与

No.	項目	対象部門	目的 (2013年度)	目標 (2013年度)	運用手順			監視測定手順			実施内容	達成度
					項目	担当者	日程	項目	責任者	測定頻度		
I-1	環境教育・学習	委員会	中部大学ESDエコマネーチーム2013における環境教育を推進し充実させる。	環境に関連する教育の機会の維持と増加	中部大学ESDエコマネーチーム2013での環境教育について把握し、充実のための検討を行う。	教員委員長	通年	Facebookや議事録等の記録を確認する。	教員委員長	1回/年	ESD関連イベント参加	◎
I-2	事業継続教育・学習	委員会	中部大学ESDエコマネーチーム2013における事業継続教育を推進し充実させる。	事業継続に関連する教育の機会の維持と増加	中部大学ESDエコマネーチーム2013での事業継続教育について把握し、充実のための検討を行う。	教員委員長	通年	Facebookや議事録等の記録を確認する。	教員委員長	1回/年	教材開発	◎
I-3	地域支援	地域部	環境支援通貨やポイント等を活用しながら、持続可能な発展に寄与し推進する。	環境支援通貨やポイントの活用。	環境支援通貨やポイントの収集。	地域部	通年	現物確認する。	地域部部長	1回/年	エコマネー事務局停止に伴い活動停止	×
					環境支援通貨やポイントの周知。	地域部	通年		地域部部長	1回/年		×
					イベント参加。	地域部	通年	Facebookや議事録等の記録を確認する。	地域部部長	1回/年		×
				運動の際に出るゴミを適切に処理することによる意識の向上。	活動場所でのゴミを残して帰る、ポイ捨ての減少。	ゴミ拾い及び呼びかけ。	地域部:スポーツ	通年		地域部部長	1回/年	部活で実施し、FBIに写真アップ
I-4	コミュニケーション	全体共通事項	内外のコミュニケーション機会の向上。	組織内のコミュニケーションの円滑化。組織外への情報のアウトプットを行い、世界中の人が活動を知ることができ、交流できる。	Skypeの活用によるコミュニケーション。	全員	通年	Skypeの記録確認	情報部部長	1回/年	各部等で実施	◎
				Facebookによる情報の公開。	通年		Facebookや議事録等の記録を確認する。	情報部部長	1回/年	FBでの記事作成	◎	
		情報部			中部大学HPのチームのページの更新、より見やすい工夫。	通年	中部大学HP	情報部部長	1回/年	HP更新	◎	
					定期的な更新を行う。	通年	Facebook更新記録	情報部部長	1回/年	定期的更新	◎	
					インターネット上での情報公開を行い活動の周知に取り組み、継続的改善を行う。	通年	Googleの検索機能で確認	情報部部長	1回/年	検索結果	◎	
					各部のSkype管理を行い全体を統括する。	Skypeの内容を半年に一度整理、確認する。	Skypeでのコミュニケーションの内容を保存し、分析する。	通年	Skypeの記録	情報部部長	1回/年	半期毎の集計
		交流部		内部のコミュニケーション機会の増加。	組織内コミュニケーションの円滑化。	交流会を開く。	交流部	1回/年	記録確認する	交流部部長	1回/年	一部実施

5. 目的目標達成状況

I 学生主体のESDを通じて行う自主的な環境活動支援、標準化人材育成への寄与

No.	項目	対象部門	目的 (2013年度)	目標 (2013年度)	運用手順			監視測定手順			実施内容	達成度
					項目	担当者	日程	項目	責任者	測定頻度		
I-5	地域連携	全体共通事項	産学連携プロジェクトや地域との交流イベントにおいてESDを周知する。	全国環境ISO学生大会を開催し交流の機会、知識向上の場とする。	講義での知識向	全員	1回/年	Facebookや議事録等の記録を確認する。	委員長	1回/年	講演を実施	◎
				ワークショップ、懇親会での交流。	全員	1回/年	委員長		1回/年	ワークショップ、懇親会実施	◎	
		地域部		デンソーハートフルプロジェクトへの参加。	各団体との交流。	地域部	1回/年		地域部部长	1回/年	デンソーイベント参加	◎
				NAGOYA学生EXPO2013への参加。	標準化教材の展示による活動周知。出展各団体との交流。	地域部	1回/年		地域部部长	1回/年	展示実施	◎
		全体共通事項		エコプロダクツ2013への参加。	標準化教材の展示による活動周知。出展各団体との交流。	委員長	1回/年		委員長	1回/年	展示実施	◎
				その他参加を決めたイベントへの参加。	ESD活動の周知への取り組み。各団体との交流。	地域部	通年		地域部部长	1回/年	春日井祭り等参加	◎
		地域部				地域部	通年		地域部部长	1回/年	交流実施	◎
		I-6		学生主体のESD	全体共通事項	標準化力量の評価	標準化の力量を担保する。		標準化スキルスタンダードを作成し力量の評価を行う。	全員	通年	現物確認する。
委員長	チャレンジ・サイトの活動を推進する。		PDCAサイクルで活動を行い、報告書にまとめる。		チャレンジ・サイトの成果を報告する。	委員長	通年	発表資料、報告書で確認する。	委員長	1回/年	報告実施	◎
	みなまた環境大学を通じたESD。		みなまた環境大学に参加しESDについて学習する。		みなまた環境大学へ参加する。	委員長	通年	水俣市への提出書類。	委員長	1回/年	水俣市でプレゼン実施	◎
副委員長	スケジュール管理。		年間のスケジュールを管理し、指示を出す。		スケジュール帳を作成し適切な管理を行う。	副委員長	通年	現物確認する。	副委員長	1回/年	適時指示だし実施	◎
地域部	環境配慮を前提とした持続可能な地域社会の活性化を図る。		様々な主体との連携活動を推進する。		環境イベントで活動を報告する。	地域部	通年	Facebook等活動記録を確認する。	地域部部长	1回/年	環境イベントで連携	◎
会計	プロジェクト運営費の適正管理をする。		プロジェクト運営費の部分検討		会計及びサステナビリティ監査報告を行う。	担当教授	1回/年	会計記録を確認する。	担当教授	1回/年	大学へ報告	◎
国際部	国際交流を図る。		チームの活動を世界に発信する。		サステナビリティ方針の英訳・中国語訳。	国際部	1回/年	現物確認する。	国際部部长	1回/年	英訳中国語訳作成公開	◎
					留学生との交流、留学を行い交流の場を広げる。	国際部	1回/年	活動記録を確認する。	国際部部长	1回/年	未実施	×
デザイン部	広告効果。	目を引くような広告、ポスターを作製する。	活動を周知してもらうための広告・ポスター作製。	デザイン部	通年	活動記録、現物を確認する。	デザイン部部长	1回/年	ポスター等作成	◎		

5. 目的目標達成状況

II サステナビリティを考慮した環境研究、活動、イベント推進

II サステナビリティを考慮した環境研究、活動、イベント推進

No.	項目	対象部門	目的 (2013年度)	目標 (2013年)	運用手順			監視測定手順			実施内容	達成度
					項目	担当者	日程	項目	責任者	測定頻度		
II-1	エネルギー使用量削減	全体共通事項	エネルギー使用量を見直し、削減する。	限られたエネルギーの大切さを理解し、使用量削減のために努める。	講義室・事務室・研究室の空調機器の適切な温度設定の呼びかけ。	全員	通年	現場確認する。	副委員長	1回/年	クールビズ、ウォームビズ実施	◎
					照明、空調機器、電子機器の消し忘れの防止。	全員	通年		副委員長	1回/年	帰宅時確認	◎
					各エレベーターの最小限使用。	全員	通年	アンケート調査を確認する。	副委員長	1回/年	実施内容	○
					夏季の軽装、冬季の厚着。	全員	夏季・冬季	副委員長	1回/年	クールビズ、ウォームビズ実施	◎	
					省エネルギー機器の使用。	全員	通年	現場確認する。	副委員長	1回/年	グリーン調達実施	◎
II-2	用紙類使用量削減及び再利用	全体共通事項	通年の活動を通し用紙類の使用量を削減する。	中部大学ESDエコマネーチームの参加者全員に浸透させる	電子媒体による用紙使用量削減	全員	通年	現場確認する。	副委員長	1回/年	ゼミサーバーの利用	◎
					会議資料等の作成に当たり印刷枚数は最小限の枚数とし、適切なサイズでの印刷を行う。	全員	通年		副委員長	1回/年	ゼミサーバーの利用による紙印刷最小化	◎
					資料作成の場合両面の印刷を行う。	全員	通年	現物確認する。	副委員長	1回/年	両面印刷実施	◎
					使わなくなった紙の裏面を使用する。	全員	通年		副委員長	1回/年	裏紙使用実施	◎
II-3	水使用量削減	全体共通事項	通年の活動を通し水資源の使用量を削減する。	中部大学ESDエコマネーチームの参加者全員に浸透させる	節水の徹底。	全員	通年	副委員長	1回/年	節水実施	◎	
II-4	廃棄物抑制	全体共通事項	廃棄物発生の抑制と廃棄物分別を行う。	廃棄物発生の抑制と廃棄物分別に努める。	ごみの発生を抑制して、同時に分別も徹底する。	全員	通年	現場確認する。	副委員長	1回/年	リユースや分別実施	◎

5. 目的目標達成状況

Ⅲ 学生主体の持続可能な3つのマネジメントシステムの構築・運用

Ⅲ 学生主体の持続可能な3つのマネジメントシステムの構築・運用(ISO14001,22301,20121)

No.	項目	対象部門	目的 (2013年度)	目標 (2013年)	運用手順			監視測定手順			実施内容	達成度
					項目	担当者	日程	項目	責任者	測定頻度		
Ⅲ-1	チーム活動	全体共通事項	中部大学ESDエコマネーターチームの維持・発展。	中部大学ESDエコマネーターチームのメンバーを増加させ、内部・外部コミュニケーションを盛んにする。	チームへの参加を新年度研修、各イベント時、ホームページ、Facebook等で呼びかける。	広報部	通年	ホームページやFacebookでの活動記録、アンケート調査を確認する。	広報部部長	1回/年	FBや掲示板等で周知実施	◎
					親睦会等の企画を実施し、コミュニケーションの充実をさせる。	交流部	通年		交流部部長	1回/年	一部実施	△
					学内及び学外での活動を写真や記事で記録し、ホームページやFacebookによって広報する。	広報部	通年	Facebook等活動記録を確認する。	広報部部長	1回/年	FBで活動報告	◎
					導入しているマネジメントシステムに関する勉強会及び講義を行い知識の向上を図る。	全員	通年	議事録等活動記録を確認する。	各部部长	1回/年	各所で議事録を作成であるが未充の部がある	△
Ⅲ-2	環境マネジメントシステム(ISO14001)	書記部	学生により環境マネジメントシステムの構築。	チームの活動に沿って適切にシステムを構築する。	サステナビリティ方針に従いシステムを構築する。	書記部	通年	書類確認する。	書記部部長	1回/年	統合MS文書類を作成し運用	◎
		監査部	方針及び目目実に沿って活動できているのか監査する。	チェックシートを作成し回答を行う。	内部監査を行い継続的に改善する。	監査部	通年	チェックシートを確認する。	監査部部長	1回/年	統合MS内部監査実施。不適合是正措置実施中	○
Ⅲ-3	事業継続マネジメントシステム(ISO22301)	書記部	学生により事業継続マネジメントシステムの構築。	チームの活動に沿って適切にシステムを構築する。	サステナビリティ方針に従いシステムを構築する。	書記部	通年	書類確認する。	書記部部長	1回/年	統合MS文書類を作成し運用	◎
		監査部	方針及び目目実に沿って活動できているのか監査する。	チェックシートを作成し回答を行う。	内部監査を行い継続的に改善する。	監査部	通年	チェックシートを確認する。	監査部部長	1回/年	統合MS内部監査実施。不適合是正措置実施中	○

5. 目的目標達成状況

Ⅲ 学生主体の持続可能な3つのマネジメントシステムの構築・運用

No.	項目	対象部門	目的 (2013年度)	目標 (2013年)	運用手順			監視測定手順			実施内容	達成度
					項目	担当者	日程	項目	責任者	測定頻度		
Ⅲ-4	イベントの持続可能性に関するマネジメントシステム (ISO20121)	地域部	持続可能なイベントマネジメントシステムの推進。	チーム活動において持続可能なイベントマネジメントシステムを推進する。	チームのメンバーに持続可能なイベントマネジメントシステムの知識を持たせる。	地域部	通年	活動記録を確認する。	地域部部長	1回/年	ファシリテーター育成	◎
					イベント中に災害が起こった場合の避難場所連絡等災害対策をする。	地域部	通年		地域部部長	1回/年	周知実施	◎
					各活動及びイベントでの移動方法を公共交通機関、カーシェアリングを行う。	地域部	通年		地域部部長	1回/年	周知実施	◎
		書記部	学生によりイベントの持続可能性に関するマネジメントシステムの構築、運用、継続的改善を行う。	チームの活動に沿って適切にシステムを構築し改善する。	サステナビリティ方針に従いシステムを構築する。	書記部	通年	書類確認する。	書記部部長	1回/年	統合MS文書類を作成し運用	◎
監査部	方針及び目目実に沿って活動できているのか監査する。	チェックシートを作成し回答を行う。	内部監査を行い継続的に改善する。	監査部	通年	チェックシートを確認する。	監査部部長	1回/年	統合MS内部監査実施。不適合是正措置実施中	○		
Ⅲ-5	マネジメントレビュー	監査部	継続的改善を行う。	今年度活動を来年に反映する。	マネジメントレビューの作成を行う。	監査部	通年	マネジメントレビューで確認する。	監査部部長	1回/年	中間実施済み 期末実施中	○
Ⅲ-6	事前準備	書記部	マネジメントシステムを構築する事前に構築可能な知識を得る。	より高いレベルのマネジメントシステム構築。	マネジメントシステムについての学習、要求事項の学習。	書記部	通年	活動記録を確認する。	書記部部長	1回/年	学習会実施	◎
		監査部	監査を行う事前に監査可能な能力を身に着ける。	円滑な監査	監査のための資料準備、トレーニング。	監査部	通年		監査部部長	1回/年	監査研修実施	◎

5. 目的目標達成状況

IV チーム活動に関連する法的その他の要求事項の遵守

IV チーム活動に関連する法的・その他の要求事項の順守

No.	項目	対象部門	目的 (2013年度)	目標 (2013年)	運用手順			監視測定手順			実施内容	達成度
					項目	担当者	日程	項目	責任者	測定頻度		
IV-1	法的・その他の要求事項遵守	全体共通事項	活動を行うにあたり法的・その他の要求事項を遵守する。	チームの活動に関する法的・その他の要求事項の理解及び遵守。	関連する法的・その他の要求事項の学習。	全員	通年	アンケート調査で確認する。	書記部部長	1回/年	順守評価実施	◎

V 環境マネジメント分野の標準化教材普及と事業継続マネジメントシステムの標準化教材の開発

V 環境マネジメント分野の標準化教材普及と事業継続マネジメントシステムの標準化教材の開発

No.	項目	対象部門	目的 (2013年度)	目標 (2013年)	運用手順			監視測定手順			実施内容	達成度
					項目	担当者	日程	項目	責任者	測定頻度		
V-1	環境マネジメント分野の標準化教材の普及	全体共通事項	環境マネジメント部門の標準化教材の普及	環境マネジメント分野の普及に努める。	2012年開発の標準化教材の普及と活動。	全員	通年	活動記録を確認する。	標準化教育部部長	1回/年	環境イベントでの展示	◎
V-2	事業継続マネジメント分野の標準化教材の開発及び普及	全体共通事項	事業継続マネジメント分野の標準化教材の開発及び普及	事業継続マネジメント分野の普及に努める。	2013年開発予定の標準化教材の開発。	標準化教育部	通年	現物確認する。	標準化教育部部長	1回/年	教材開発	◎
					各プロジェクト、イベントと連携し普及に努める。	標準化教育部	通年	活動記録を確認する。	標準化教育部部長	1回/年	教材展示	◎
					2013年開発予定標準化教材の英語訳版を作成し、国際化を図る。	国際部	通年	現物確認する。	国際部部長	1回/年	英訳実施 未完成	△
		デザイン部	標準化教材のデザイン	ゲームの趣旨がわかりやすいデザインにする。	2013年開発予定の標準化教材のデザイン。	デザイン部	通年		デザイン部部長	1回/年	デザイン実施	◎

6. マネジメントレビュー

中部大学ESDエコマネーチームでは、マネジメントシステムとパフォーマンス改善を目的に、チーム全体で年に1回大きなPDCAを回すとともに、各部署で半期毎に1回PDCAを回し評価している。2013年度のマネジメントレビュー結果は以下のとおりである。

前期のマネジメントレビュー

各自から提出された前期の活動に対する評価の結果を分析し、委員長による推奨事項として以下を指摘した。

- 目的・目標・実施計画の作成と周知の徹底
(サステナビリティ方針との連携)
- 責任/役割/権限/自覚
 - ①各部署のリーダーの責任及び権限の強化、②やることリスト作成による進捗状況管理
- 運用管理
 - ①業務の円滑化のための報連相の徹底、②作業日程やシフト表の作成
- コミュニケーション
スカイプのログイン率向上と議事録作成の徹底
- 見直し
遅延の回避、社会人としての意識向上

後期のマネジメントレビュー

前期のマネジメントレビューでの指摘事項については解消できた。

年度当初に設定したチームのサステナビリティ方針と目的目標実施計画の実施状況については、その大半が達成できた点は評価できる。

特に、標準化教育部や地域部は全員が所属しており、チーム一丸で積極的に活動に取り組むことで良い成果を得ることができた。

一方、一部の部（国際部、監査部等）では、一部遅延が発生している。今年度中に遅延を解消することが望まれる。

来年度は今年度の活動を踏まえ、さらに伸ばして行ってほしい

[文責:小寺章史/委員長]

7.1 学生主体の環境マネジメント分野の標準化教育

本学では標準を使う→作る→教えるという実践型の標準化人材育成を行っている。2012年度は小学3年生以上を対象とした楽しく環境マネジメントが学ぶことのできる実際に経営者としての意思決定を行いながら環境経営を人生ゲーム感覚で学ぶのを趣旨として、環境マネジメント分野における標準化教材「もし社長になったら」を産学官民共同で開発した。

活動内容

4月～7月:教材開発

8月:教材に対する外部コメントフィードバック(経済産業省・日本規格協会)、
中部大学フェア、オープンキャンパスでの実演

9月:環境デーなごやでの展示+実演、環境管理責任者向けの実演

10月:教材改訂と翻訳作業、

11月:国連欧州経済委員会(英語)、あいちESDフェスタ2012での発表+実演

12月:エコプロダクツ2012での展示+実演

1月:日本経営士会での実演

2月:3月の発表準備

3月:環境経営講座での発表+実演(中部大学)、標準化教育大学間ネットワーク会議での発表+実演

こどもから大人まで楽しみながら環境経営を学ぶための良い標準化教材に近づけるようチーム一丸となってプロジェクトを進行した。

何度も試行錯誤を積み重ね、さらに、標準化教育に実績のある経済産業省や日本規格協会のコメントや環境デーなごやでの実演を通じて得たコメント基に教材の改訂を行った。その後、英語版への翻訳に取り組み、国連欧州経済委員会での講演、中部圏内の主要産業の環境管理責任者で構成する研究会、エコプロダクツ2012の出展、ESDの会議や日本経営士会中部支部における実演を行った。

2013年2月末、16カ国と4つの国際機関、4社で教材が使用又は採用された

7.1 学生主体の環境マネジメント分野の標準化教育

成果の公表

Facebookを通じて随時プロジェクト内容及び成果を公開している。

<https://www.facebook.com/ChubuunivESDecomoneyteam>

さらにゼミのHPでゲームを無償公開している

http://www3.chubu.ac.jp/faculty/ito_kayo/

展示発表については官民向け会議1回、学術会議3回、環境イベント3回、国際会議1回、本学イベント3回、産業界向け会議3回で実演を実施した。(下記参照)

TBSラジオ:<http://www.tbs.co.jp/radio/eco/program/2012-02.html>

エコプロダクツ2012:http://eco-pro.com/eco2012/system/ecopro2012/events/detail/detail_10125.html

国連欧州経済委員会:

http://www.unece.org/fileadmin/DAM/trade/wp6/documents/2012/PPTs/021_KayoIto.pdf

http://www.unece.org/fileadmin/DAM/highlights/unece_weekly/weekly_2012/Weekly_509.pdf

EICネット:

<http://www.eic.or.jp/event/?act=view&serial=27107>

<http://www.eic.or.jp/event/?act=view&serial=29406>

3月2日に共催で中部大学においてゲームを活用した環境経営講座を開講した。

http://www.chubu.ac.jp/future_events/detail-449.html

中部大学ESDエコマネーチーム2012 標準化教材:もし社長だったら



7. 2012年度の活動評価

7.1 学生主体の環境マネジメント分野の標準化教育

発表及び実演〔2012年度〕

種類	日時	名称	場所	参加者	発表/実演
本学	8/5-7	オープンキャンパス	中部大学	一般	50名(18時間)
学術	8.22	経済産業省・日本規格協会	日本規格協会(東京)	標準化教育担当者	5名(4時間)
本学	8/24	中部大学フェア	中部大学	一般	48名(4時間)
イベント	9/15	環境デーなごや	久屋大通公園	こども、一般、産業界	60名(8時間)
産学	9/28	環境管理責任者向け	リコー沼津	産業界	18社30名(3時間)
イベント	11/4	あいちESDフェスタ2012		ESD関係者	20名(2時間)
学術	11/7	国連欧州経済委員会	国連本部ジュネーブ	標準化教育担当者	20カ国30名(2時間)
イベント	12/13-15	エコプロダクツ2012	東京ビッグサイト	こども、一般、産業界	200名(26時間)
産学	1/22	日本経営士会	日本環境取引機構	日本経営士会	10名(3時間)
産学	1/26	日本経営士会	芸術創造センター	日本経営士会	31名(3時間)
本学	3/2	環境管理講座	中部大学	産業界	63名(7時間)
学術	3/16	標準化教育ネットワーク会議	九州大学	標準化教育担当者	13大学(4時間)

7.2 命をつなぐProject-愛知環境賞受賞

活動内容

命をつなぐPROJECTとは、行政・学生・企業・NPOとともに取り組んでいる公共支援事業「知多半島臨海部の企業緑地における生態系ネットワーク形成担い手育成事業」であり、産学官民連携で知多半島臨海部の企業緑地における生態系ネットワーク形成を目指し、フリーペーパー「エコレコあいち」を制作する活動である。1・4・9・12月に発刊している。

企画の内容は①JX日鉱日石エネルギーにおけるビオトープ整備第二段、②愛知製鋼における新ビオトープ整備建設のため住友林業緑化、③インターリスク総研・地域環境緑化の集合団体でもあるエコワセットと協しあい新整備に向けた取り組みを行ってきた。

飯田貴也(中部大学ESDエコマネージャー2012年委員長)が関わってきた。2013年度の活動として、授賞式に参加し就職活動を兼任しつつ企画の方向性確認や将来の方向性などを連携企業とやり取りをとりあらゆる課題を打開してきた。さらに就職活動を終え9月に新体制変更のために本プロジェクトを脱退したが事務局の諸事情により新体制が落ち着くまで学生代表として検討会などにも参加した。そして2014年度においてはこの企画がさらに進行する予定引き続き命をつなぐProjectの補佐と言う役割を保つ予定である。

成果

『命をつなぐPROJECT』が愛知環境賞「優秀賞」を受賞した。受賞の様子は各メディアに取り上げられた。

※資源循環型社会の形成を促進することを目的に愛知県が主催する表彰制度である。先駆的で効果的な技術・事業・活動・教育の事例を募集し、優れた取組に対して表彰をする。

また、環境イベント等を通じた広報活動を行っている。東京で開催されたエコプロダクツ2013においてはIHIのブースでプロジェクト発表したほか住友林業緑化のブースとJX日鉱日石エネルギーブースにおいても取り組みを発表した。



[文責:飯田貴也/委員長(2012)]

7.3 学長賞

活動内容

中部大学はオハイオ大学との交換留学制度がある。中部大学ESDエコマネーチームには国際部があり、英語に興味のある学生や留学経験のある日本人および中部大学の留学生が所属している。中部大学ESDエコマネーチーム2012が開発した環境マネジメント分野の標準化教材「もし社長だったら」の日本語版を作成し、その後英語版を作成した。

成果

中部大学ESDエコマネーチーム2012が開発した環境マネジメント分野の標準化教材『If you were President』が中部大学ESD研究活動発表会において学長賞を受賞した。学生主体の持続可能な発展のための教育（ESD）の推進を目的に中部大学が主催する表彰制度である。先駆的な研究・活動の事例を募集し、発表会を行い、優れた取り組みに対して表彰をする。受賞の様子はオハイオ大学においても広く周知された。



[文責：井上翔太/副委員長(2012)]

〒487-8501 愛知県春日井市松本町1200
中部大学経営情報学部
伊藤佳世研究室内
中部大学ESDエコマネーチーム
電話 0568-51-1111(4976)
電子メール: chubu_esd_team@yahoo.co.jp